

2018年12月期 第1四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社



証券コード : 4572

- CDC 7 キナーゼ阻害薬に係る日本における特許登録（1月）
- 資金の借入れ（1月）
- 譲渡制限付株式報酬制度の導入を決議（2月）
- BTK阻害薬に係るカナダにおける特許登録（3月）
- CDC7キナーゼ阻害薬に係る欧州における特許査定（3月）
- **大日本住友製薬株式会社との共同研究ならびに開発および事業化に関する契約の締結（3月）**

4月以降

- CDC 7 キナーゼ阻害薬に係る米国における特許査定（4月）
- 連結子会社ProbeXの吸収合併を決議（4月）
- **国立がん研究センターと新規創薬標的に関する共同研究契約を締結（5月）**
- BTK阻害薬に係るシンガポールにおける特許査定（5月）
- 独エボテック社とINDiGoプラットフォームにおいて提携（5月）

2018年12月期 第1四半期 連結経営成績の概況



(百万円)	2017年 第1四半期 実績	2018年 第1四半期 実績	前年同期比	2018年 通期計画	要因
売上高	196	211	+15 +7.7%	1,190	キナーゼタンパク質の販売が好調
営業損益	△113	△ 188	△75	△679	研究開発費への投資
経常損益	△113	△ 191	△77	△694	
当期純損益	△118	△ 194	△75	△758	
研究開発費	130	208	+78 +59.7%		前臨床試験費用への投資

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しています。

(注2) 「営業損益」「経常損益」「当期純損益」の対前年同期増減率は、それぞれ損失を計上しているため数値を表示していません。

(注3) 2018年12月期計画値は、2018年2月9日公表値を表示しています。

2018年12月期 第1四半期 事業別業績の概況



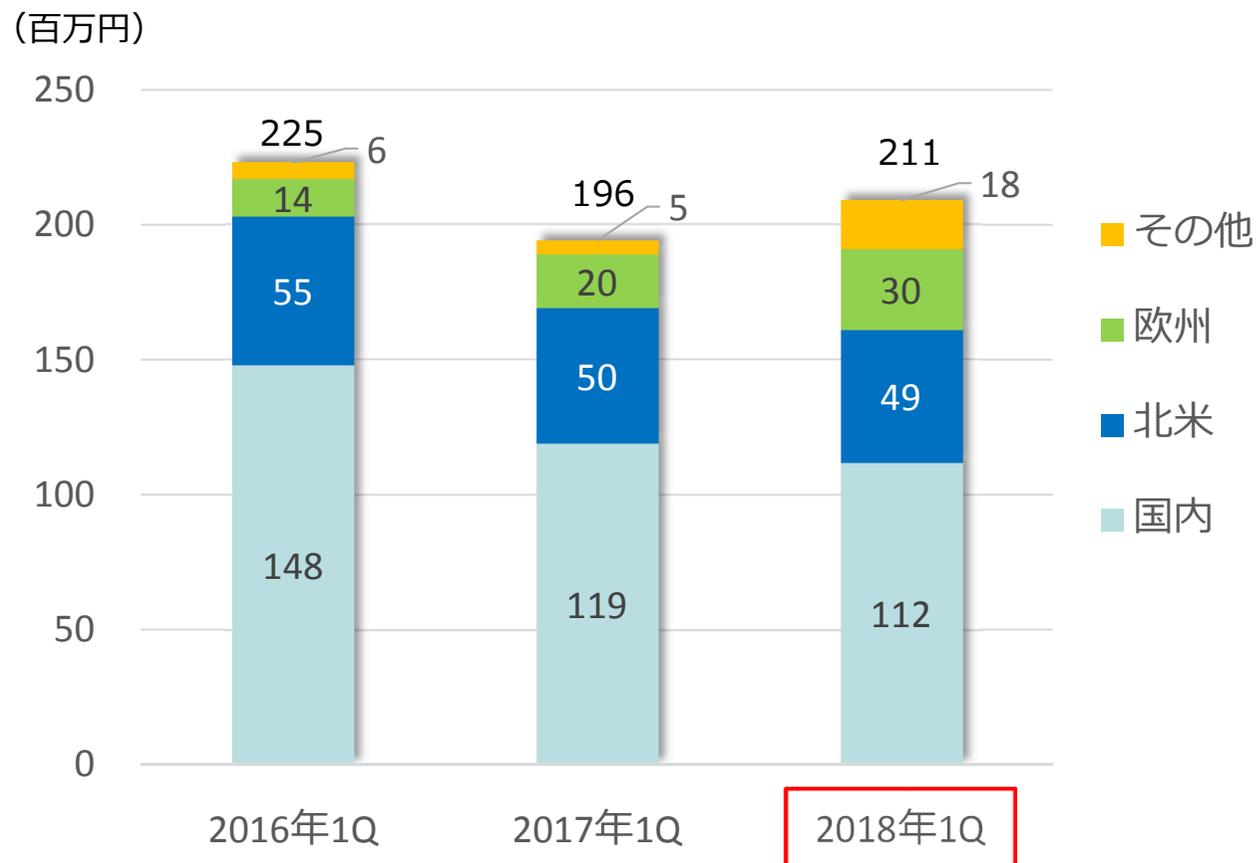
(百万円)	2017年 第1四半期 実績	2018年 第1四半期 実績	前年比	2018年 通期計画	進捗率	要因
連結売上高	196	211	+15 +7.7%	1,190	17.7%	
創薬支援	196	211	+15 +7.7%	750	28.1%	日本、欧州、その他地域（特に中国） でキナーゼタンパク質の売上が好調
創薬	—	—	—	440	—	
連結営業損益	△113	△ 188	△75	△679	—	
創薬支援	63	64	+1 +1.7%	150	43.0%	利益率の高いキナーゼタンパク質が貢献
創薬	△177	△ 253	△76	△829	—	前臨床試験費用への投資

(注1) 百万円未満は切り捨てして表示しています。

(注2) 創薬事業および連結の営業損益における対前年同期増減率および対通期計画比における進捗率は、それぞれ損失を計上しているため数値を表示していません。

(注3) 2018年12月期計画値は、2018年2月9日公表値を表示しています。

創薬支援事業 地域別累計売上高推移（連結）



- 国内：前年比5.8%減
小野薬品工業向け売上は減少したが、他社向けは堅調に推移し、計画対比では堅調に推移。
- 米国：前年比1.0%減
キナーゼタンパク質販売が減少したが、セルベースアッセイ受託は好調。
- 欧州：前年比50.0%増
キナーゼタンパク質が好調。
- その他：前年比208.6%増
中国でキナーゼタンパク質が大幅に伸長

(注) 小野薬品工業向け売上高
2017年Q1 …… 61百万円
2018年Q1 …… 38百万円

バランスシート状況 (連結)



(単位：百万円)

	2017年12月期末	2018年12月期 第1四半期末	増減額	増減理由
流動資産	2,134	2,173	+39	
現金及び預金	1,856	1,848	△7	
固定資産	56	53	△3	
資産合計	2,190	2,226	+36	
流動負債	341	407	+65	1年内返済長期借入金+108、未払金 △32等
固定負債	470	639	+169	長期借入金+183、社債△14等
負債合計	812	1,046	+234	
純資産合計	1,377	1,179	△198	利益剰余金△194
負債・純資産合計	2,190	2,226	+36	

自己資本比率	62.2%	52.3%
一株当たり純資産	142.68円	121.95円
PBR(株価純資産倍率)	7.91倍	15.03倍
(参考) 当社株価	1,128円	1,833円

(注) 当社株価はJASDAQグロース終値

- **CDC7 阻害剤SRA141（シエラ・オンコロジー社へ導出）：がん**

臨床試験開始に向けた準備がシエラ社にて進められており、同社は2018年下半期のIND申請を予定。順調に進捗した場合、当社はSRA141の臨床試験開始に基づくマイルストーン収入を受領する予定です。

同社が実施したラットを用いた血液がん（MV4-11）および大腸がん（colo-205）の担癌モデルにおいて、SRA141はその腫瘍増殖を強力に阻害しました。血液がんのモデルでは一部のラットが完治し、さらに大腸がんのモデルでも半数以上で腫瘍の退縮が観察されました。シエラ社では、本年下半期のIND申請を予定しており、大腸がん患者を対象としたフェーズ1/2試験に進めていく予定です。

- **BTK阻害剤AS-871：自己免疫疾患**

原薬製造委託先において化合物の大量合成が実施されており、2018年中のGLP基準に基づく前臨床試験の開始を計画しています。

- **BTK阻害剤CB-1763：血液がん**

医薬品原体の検討及びプロセス検討を実施しており、医薬品原体が決定され、合成プロセスが確立次第、速やかにGLP試験用化合物の大量合成を開始する予定です。

前臨床ステージにあります、上記2つのBTK阻害薬プログラム（AS-871およびCB-1763）は、ブロックバスターとしての可能性が高いため、当社リソースを注力し、最速で前臨床研究を進め、2019年上期のIND申請を目指します。

（*）前臨床試験を加速させるために、独エボテック社と、同社のINDiGOプラットフォームの活用において提携。



大日本住友製薬

**キナーゼ阻害剤創製のノウハウを持つ当社と、
精神神経領域の創薬研究のノウハウを持つ大日本住友製薬が連携
革新的な治療薬の創製を目指す**

■ 契約内容

- 共同研究（新規キナーゼ阻害剤の創製）
- 大日本住友製薬による開発および事業化

■ 疾患領域

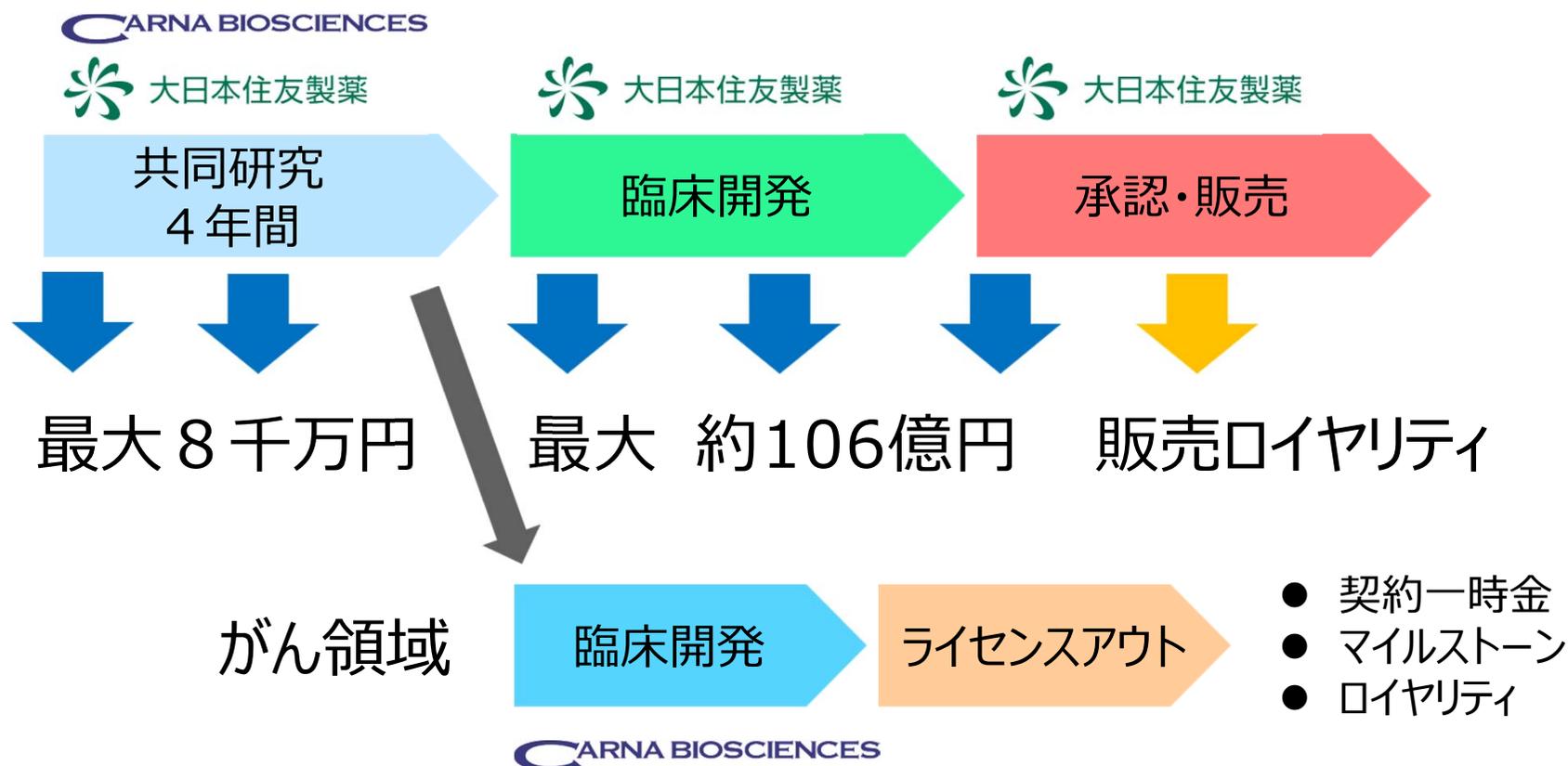
精神神経疾患を中心としたアンメット・メディカル・ニーズが高い疾患領域

（がん領域は当社が権利を有する）

創薬共同研究契約の概略



- 契約締結日 2018年3月27日
- 共同研究期間 契約締結から4年間
- 契約金額 契約一時金、開発及び販売マイルストーンとして最大約106億円を当社が受領
- ロイヤリティ 年間正味売上高の一定の割合



- ✓ 国立研究開発法人 国立がん研究センターとの新たな共同研究契約を締結



国立がん研究センター研究所 がん幹細胞研究分野 増富健吉分野長らの研究グループが発見した新しい作用機序に基づく新薬開発を目指して共同研究を開始しました。

- ◆ Wntシグナル阻害剤の共同研究も継続し、画期的な新規抗がん剤を開発していきます

自社先行化合物（NCB-0846および0594）で得た知見を基に、がん幹細胞への効果に加えて、がん免疫療法での効果を併せ持った、さらに革新的で効果の高い新規抗がん剤の開発を目指して引き続き研究開発を進めていきます。



化合物	標的	対象疾患	開発フェーズ					パートナー/共同研究先
			Discovery	Preclinical	PhI	PhII	PhIII	
SRA141 (AS-141)	CDC7/ASK	がん						
AS-871	BTK	免疫炎症疾患						
CB-1763	BTK	血液がん がん免疫						
低分子化合物	Wnt-signal	がん がん免疫						
低分子化合物	キナーゼ	精神神経疾患						
低分子化合物	TGFβ signaling	血液がん がん免疫						
低分子化合物	キナーゼ	免疫炎症疾患						
低分子化合物	N/A	マラリア						
低分子化合物	DGK	がん免疫						
低分子化合物	非開示	がん						

- ✓ 国内は、小野薬品工業向け売上は減少したが、他社向けは堅調に推移。
- ✓ 北米地域では、キナーゼタンパク質の販売が減少したものの、セルベースアッセイ受託が好調。
- ✓ 中国でキナーゼタンパク質が大幅に伸長。韓国も引き続き好調。中国は、代理店との関係強化でさらなる拡販を目指す。
- ✓ 欧州では、キナーゼタンパク質が好調。
- ✓ DGKアッセイキットは、引き続き大型契約の獲得を目指して活動中。
- ✓ RPPAサービスの再提供および新たなセルベースアッセイサービスの開始に向けて準備中。

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac（心臓）の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物科学と言われ、生物学（Biology）と生命科学（Life Science）から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀の初めに、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078) 302-7075 Fax (078) 302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。